財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
7年度

1996

㈶愛知県埋蔵文化財センター



西上免遺跡　前方後方墳



10 周年記念事業　親子の考古学教室

序

財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、昭和60年度に設立され、本年度で10周年を迎えました。これに伴い「朝日遺跡」をテーマにしたシンポジウム、展示、講座、体験発掘など様々な記念事業を企画・開催いたしましたところ、多くの方々に積極的な御参加をいただきました。改めて埋蔵文化財の発掘調査および文化財保護の普及啓発活動の重要性を認識すると共に、この10年にみられた社会の多様な変化の中で、当センターも絶えず新たな形を求められてきたことを痛感いたします。

本年度もこれらの発掘調査の概要や調査研究、普及活動の記録を「年報　平成７年度」として公表することとなりました。本書が考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用の上でもお役に立つことができれば誠に幸いに存じます。

本書の刊行及び発掘調査にあたっては、理事・専門委員の諸先生方及び愛知県教育委員会のご指導を賜るとともに、建設省・日本道路公団・愛知県土木部・地元各市町村・そのほかの関係者の方々から多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

平成８年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　安部　功

例　言

1．本書は財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成７年度における事業の概要をまとめたものである。

2．発掘調査および整理報告書の作成は、建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、愛知県土木部から、愛知県教育委員会を通じて委託を受け、本センターが実施した。

3．調査の概要は、各遺跡毎にまとめて記載した。

4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・十周年記念事業など発掘調査以外の事業について掲載した。

5．調査に当たっては、理事・専門委員の各氏および愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導・助言をいただいた。

6．本書の編集は堀木真美子、武部真木（調査研究員）が行った。また関係各機関や各遺跡の発掘・整理にかかわる作業員の方々に多大な援助を賜わった。

7．各遺跡における調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。

8．各調査区の名称は、Ａ区、Ｂ区……のようにローマ数字で表し、調査した西暦年度の下２桁を調査区名の前に冠した。(ただし、昭和63年度以前については西暦ではなく年号を冠している。)したがって平成７年度の調査区は95〇区となる。

9．文責は各文末に記した。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長

安部　功

常務理事

樋口　康則

理　事

安井　俊夫	愛知県教育委員会教育長
井関弘太郎	名古屋大学名誉教授
伊藤　秋男	南山大学教授
大参　義一	愛知学院大学教授
坪井　清足	財団法人大阪府文化財調査研究センター理事長
楢崎　彰一	名古屋学院大学教授(名古屋大学名誉教授) 愛知県陶磁資料館総長
名倉　庸一	都市教育長協議会会長(西尾市教育長)
清水　榮一	町村教育町協議会会長(小坂井町教育長)
山本　邦夫	愛知県土木部長
島田　利	愛知県教育委員会生涯学習部長
武田　晋	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館館長(清洲町長)
福田　清彦	愛知県陶磁資料館館長

監　事

鍵谷　正衛	(非常勤)
岩田　啓氏	愛知県出納事務局次長兼管理課長

専門委員

考古学	楢崎　彰一	名古屋学院大学教授 (名古屋大学名誉教授) 愛知県陶磁資料館総長
文献史学	福岡　猛志	日本福祉大学教授
地理学	海津　正倫	名古屋大学教授
建築史学	小寺　武久	名古屋大学教授
考古学・動植物学	渡辺　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田　次郎	京都大学名誉教授
保存科学	沢田　正昭	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部長
岩石学	諏訪　兼位	日本福祉大学情報社会学部長 (教授) (名古屋大学名誉教授)
木材組織学	木方　洋二	名古屋大学名誉教授

職　員

事務局長 (兼管理課長)	杉浦　彰治	
管理課		
課長補佐	市山　泰	
主　査	牧野　豊	
主　任	伊藤　弘	
主　事	小杉　正樹	大井　治
	坂　美貴子	
調査課		
課　長	中川真文	
課長補佐 (兼主査)	高橋　信明	福岡　晃彦
主　査	前田　雅彦	神谷　知幸
	黒田　哲生	水谷　寛明
主　任	赤塚　次郎	
調査研究員 (主　任)	小澤　一弘	
調査研究員	坂倉　澄夫	小泉　渡
	増沢　徹	小池　一徳
	松田　訓	伊藤　秀紀
	石黒　立人	宮腰　健司
	栗林　典昭	大崎　正敬
	今西　康二	中野　良法
	西原　正佳	北村　和宏
	山本　寿徳	酒井　俊彦
	池本　正明	秋田　幸純
	服部　俊之	小川　芳範
	鈴木　正貴	牧　謙治
	蟹江　吉弘	樋上　昇
	飴谷　一	加藤　博紀
	伊藤太佳彦	堀木真美子
	永井　宏幸	鬼頭　剛
	武部　真木	蔭山　誠一
	原田　幹	早野　浩二
	水谷　豊(期限付)	

(平成８年２月１日現在)

目　　次

Ⅰ．**平成７年度事業の概要**…… 1
Ⅱ．**遺跡調査の概要**…… 5
　１．調査の理由と工程…… 6
　２．遺跡の位置…… 8
　３．各遺跡の調査概要
　　ＮＡ335号古窯跡群 …… 10
　　円通寺古墓……12
　　田所遺跡……14
　　大毛沖遺跡……18
　　大毛池田遺跡……20
　　門間沼遺跡……28
　　西上免遺跡……38
　　東新規道遺跡……42
　　東苅安賀道遺跡……46
　　馬引横手遺跡……50
　　毛受遺跡……54
　　八王子遺跡……56
　　大縄遺跡……64
　　清洲城下町遺跡……66
　　一色青海遺跡……68
　　朝日遺跡……74
Ⅲ．**調査研究**……79
　朝日遺跡の変遷過程を描くにあたっての二、三の問題……石黒立人……80
　八王子遺跡95Aa区ＳＫ99・100について …… 飴谷　一 …… 100
　堅穴住居の地域性が表れる背景
　－弥生時代中期後葉における伊勢湾沿岸地域を中心にして－……蔭山誠一 …… 104
　濃尾平野における布留式甕について
　－門間沼遺跡94Ｃｂ区ＳＤ15出土土器を中心として－……早野浩二 …… 118
　古代大毛遺跡を考える……小川芳範 …… 128
　清郷型鍋再考……永井宏幸 …… 138
　尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年……北村和宏 …… 154
　大毛池田遺跡・門間沼遺跡にみられる近世のハザ遺構……西原正佳 …… 170
　濃尾平野における歴史時代の地震痕　その４……服部俊之 …… 176
　堆積物からみた濃尾平野の古地理変遷　その１……鬼頭　剛 …… 182
Ⅳ．**埋蔵文化財センターの活動** …… 193
　創立10周年記念事業 …… 194
　発掘調査技術等研修会（Ⅰ）・（Ⅱ）・現地説明会 …… 198
　資料の貸出・提供 …… 199
　検討会・シンポジウム事前研究会 …… 201
Ⅴ．**付篇（受贈図書一覧）** …… 203